



2004年9月8日

生体キノン研究会 第3回講演会の開催

生体キノン研究会（会長は紀氏健雄・神戸学院大学薬学部長）は、9月17日に、東京で第3回講演会を開催いたします。

自然界には、コエンザイム Q₁₀をはじめ、ビタミン K、ロドキノン、ピロロキノリンキノン（PQQ）など数多くのキノン化合物が存在し、生体の中で重要な役割を担っており、その生理作用から医薬品や健康食品として注目されています。これらのキノン化合物を広くかつ深く理解して行くことを目的に生体キノン研究会（事務局：三菱ガス化学株式会社・生物化学部内）を2002年8月に設立しております。

第3回講演会を9月17日（金）10時30分～17時35分（懇親会17時45分～19時45分）に中央大学駿河台記念館（東京・御茶ノ水）で開催いたします。今回は東北大学・古山先生の特別講演、コエンザイム Q₁₀ シンポジウムを特に企画いたしました。主催は生体キノン研究会で、日本生物工学会、日本薬学会、日本農芸化学会の共催、日本ビタミン学会の後援です。当日参加を歓迎いたします。

演題及び演者は、ロドキノン - 嫌氣的ミトコンドリア呼吸鎖における役割（東大・坂元君年先生）、ビタミン K - 医学および生物学領域における新たな展開（神戸薬科大・岡野登志夫先生）、植物と細菌の光化学系 I、 - キノンの働きと人工化合物での置き換え（名大・伊藤 繁先生）、PQQ の機能 - キノプロテインの酸化還元反応特性と特異な物質変換能（山口大・松下一信先生）、シンポジウム - コエンザイム Q₁₀ の最近の研究動向とサプリメントとしての意義 還元型 CoQ₁₀ 研究の最近の動向（神戸学院大・岡本正志先生）ヘルスフードとしての CoQ₁₀ の今後の展望（東京海洋大・矢澤一良先生）、特別講演 - キノン側鎖 プレニル鎖延長酵素の構造と機能（東北大・古山種俊先生）です。

ロドキノンは、光合成細菌から初めて単離された脂溶性の生体キノンであり、嫌気性呼吸鎖の構成要素と考えられています。現在基礎研究が行われており、ロドキノンの関与する代謝経路を標的とした医薬品の開発が進められています。ビタミン K は、血液凝固作用や骨量減少改善作用が認められ、医薬品や健康食品原料用途で使用されています。PQQ は、生体のエネルギー獲得系において必須な酸化還元酵素の補酵素の一つで、1979年に微生物から発見されました。PQQ には抗酸化作用、神経成長因子（NGF）増強作用、アルドース還元酵素阻害（ARI）作用などが見出されています。2003年4月に、哺乳類で初めてPQQを利用する酵素が見出されたことから、PQQは新しいビタミンではないかと注目を集めています。コエンザイム Q₁₀ は、体内に広く存在する補酵素で、エネルギーを供給する働きに加えて、抗酸化作用を持つことから、国内外で医薬品や健康食品原料として広く使われています。

生体キノン研究会では、コエンザイム Q₁₀ や PQQ をはじめとした生体キノン化合物を理解して行くために、今後も講演会を開催して行きます。

本件に関するお問い合わせ先

生体キノン研究会事務局
（三菱ガス化学株式会社・生物化学部内）
神谷 TEL 03-3283-4773